

“ 明日終わっても
悔いのない人生を ”



加藤 咲磨

ぐんま国際アカデミー中高等部
(DP)

IBで広がる未来

IB Alumni Pathways

文部科学省IB教育推進コンソーシアム事務局

2025/12/30 発行

進学先

横浜市立大学

医学部 医学科

入試方式

国際バカロレア特別選抜

この大学を選んだ理由

病気やその治療に対して興味を抱いていたことに加え、人の命を助けることに直接貢献できる点に惹かれ、医学を志しました。IB生を積極的に受け入れていることや、留学プログラムが充実していることに魅力を感じ、横浜市立大学を進学先として選びました。

ADMISSION PROCESS 受験プロセス



高2/DP1～高3春

履修選択 & 英語資格の取得

- TOEFL iBT (80以上) or IELTS (6.0以上) を早期クリア (※英検不可)
- HL/SLの必須指定科目の履修条件を確認



高3/DP2 春～夏

出願書類準備

- 志望理由書・活動実績書の作成
- IB成績要件 (40点以上目安) のクリアに向けた学習計画



高3/DP2 11月

IB最終試験受験

- 11月IB最終試験を受験
- 同時期に大学へ出願手続



高3/DP2 冬 (12月～2月)

DPスコア確定 & 二・三次選考

- 12月：二次選考 (面接試験) を受験
- 1月：IB最終スコア確定
- 三次選考 (面接点+IBスコアで判断) への出願



高3/DP2 冬

最終合格決定

- 1月末：最終合格発表
- 3月頭：高校卒業

※上記は作成時点のものです。最新の入試要項や出願条件につきましては、必ず各大学の公式Webサイト等でご確認ください。



受験で努力したこと

横浜市立大学のIB入試は主にIBスコアと面接によって合否が決まるため、まずは確実に高いIBスコアを取れるように努力しました。また、出願書類を準備する過程でEEやCASについて振り返り、自分の志とこれまでの経験との結びつきを意識しました。



大学生活で最も発揮していた IBの学習者像（Learner Profile）とは？

「挑戦する人」：

IBでいくつもの課題や課外活動を並行してこなしていく経験を積んだことで、課題や試験がある中でも様々な課外活動に挑戦できています。



現在のキャリア・今後の目標

まだどの診療科に進むかなど、具体的なキャリアは描けていないのですが、臨床に携わりながらもその中で直面した医療の限界を突破するべく、研究にも従事できれば理想的ではないかと考えています。



大学で学んだこと

1年次では化学などの教養科目を学び、2年次から正常な人体の構造や機能を学ぶ基礎医学の勉強を始めました。3年次からは臨床医学の勉強も始まり、診療科ごとに様々な病気やそれに対する治療法を学んでいます。病棟実習が始まるのは4年次以降となるのですが、基礎医学の実習は2年次から経験していて、直近ではマウスに薬剤を投与してその作用を観察する薬理学実習などがありました。3年次の講義は座学が中心ですが、まだ解明されていない病気のメカニズムや試験段階の治療法についても学ぶことができ、興味深いです。



IBで学んだスキルが 大学の学びで生かされた場面

大学では講義資料に論文の引用が登場することもあります。EEやIAを書く上で英語論文を参照することもあったため、そのような資料に対しても苦手意識を抱かずに学習できています。また、実験レポートに取り組む際にも、構成や図表の作成などにIAでの経験を生かさせますし、やや重めなものを課された際にも、EEを書き上げた経験があるためあまり臆することなく向き合えます。文献の信憑性を吟味した上で出典を明記することが自然にできるのも、IBで培ったアカデミック・インテグリティ（学術的誠実性）のおかげだと思えます。